

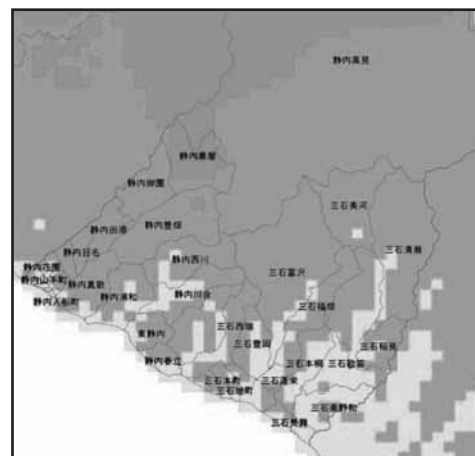
# 地震の想定

中央防災会議（国）によると、海溝型地震で、新ひだか町で最も大きな震度となるのは「十勝沖の地震」と想定されています。町内の広範囲で震度5強となり、一部では震度6弱も予測されています。

震度想定図

十勝沖地震震度分布

- 震度5弱
- 震度5強
- 震度6弱



# 室内の安全対策

## 負傷者の7割は家具・ガラスが原因

地震というと、建物の倒壊など構造物自体の損壊を思い浮かべますが、建物の中で起こる被害を忘れてはいけません。過去の震災でも、建物は無事でも屋内にあるものが移動・破損することにより、ケガをすることが多く報告されています。

阪神淡路大震災では約7割の方が家具の転倒やわれたガラスの破片で負傷しています。

### 1 家具の転倒・移動防止

棚などは、L字型の金具や突っ張り棒で固定する。



### 2 ガラスの飛散防止

窓やガラスは、飛散防止フィルムを貼る。



### 3 ケガ防止

家具の配置を工夫する。(家具の転倒方向に寝ない) 寝室には懐中電灯、スリッパや履物を用意する。

# 非常時の防災用品

## 非常持ち出し品を用意しよう

非常持ち出し品とは、避難する時にまず最初に持ち出すべきものです。

リュックタイプの袋にまとめ、すぐに持ち出せる場所に置いておきましょう。

また、家族構成によって必要なものが違いますので、家族で必要なものを話し合い、用意しましょう。

下記の表は、阪神淡路大震災後に生活協同組合コープこうべが実施したアンケート「地震時に役立つグッズ」ベスト20です。是非、参考にしてください。



役立つグッズ ベスト20

非常持ち出し品 (基本)

1 懐中電灯	11 使い捨てカイロ
2 食料品	12 カセットコンロ
3 ラップ	13 下着
4 ビニール袋	14 薬
5 小型ラジオ	15 紙コップ
6 トイレトペーパー	16 飲料水
7 電池	17 アルミ箔
8 ウェットティッシュ	18 紙皿
9 手袋・軍手	19 生理用品
10 小銭	20 帽子

貴重品	安全関係
<input type="checkbox"/> 現金 (※10円玉も)	<input type="checkbox"/> 救急セット
<input type="checkbox"/> 預金通帳、印鑑	<input type="checkbox"/> 厚底靴
<input type="checkbox"/> キャッシュカード	<input type="checkbox"/> 軍手
<input type="checkbox"/> 身分証明書 (保険証、免許証)	<input type="checkbox"/> ヘルメット、厚手の帽子
日用品	<input type="checkbox"/> 防災マップ
<input type="checkbox"/> 携帯ラジオ	食料関係
<input type="checkbox"/> 懐中電灯	<input type="checkbox"/> 飲料水
<input type="checkbox"/> ろうそく、マッチ、ライター	<input type="checkbox"/> 非常食
<input type="checkbox"/> ロープ、乾電池	<input type="checkbox"/> 紙皿、紙コップ、わりばし
<input type="checkbox"/> ビニール袋	<input type="checkbox"/> ナイフ、缶切り、栓抜き
衣料関係	その他
<input type="checkbox"/> 衣類	家庭の状況に応じて介護用品、紙おむつ、ミルクなど
<input type="checkbox"/> タオル類	

「神戸からのメッセージ」生活協同組合コープこうべ編



(東日本大震災被災地・宮城県女川町 日高中部消防組合支援派遣時撮影)

突然の地震、あなたは自分と家族を守れますか？

# 地震に備える

## 9月1日は「防災の日」

昭和35年に制定された「防災の日」

9月1日の日付は、大正12年9月1日に発生した関東大震災にちなんだものです。

3月11日金曜日、14時46分ごろ、太平洋三陸沖を震源に発生した東日本大震災。日本国内観測史上最大のマグニチュード9.0を記録し、死者・行方不明者が2万人を越える被害となりました。

津波による建物の倒壊や原子力発電所の事故により、今なお、8万人以上の方が避難生活を余儀なくされています。あらためて、自然災害の恐ろしさを感じました。

どんなに社会が発展し、暮らしが向上しようとも、自然は私たち人間の全てを奪ってしまう力を持っています。

町では、地域防災計画や防災マニュアルを定めています。いざ災害がおきた場合、行政の力だけではどうすることもできません。

町民一人ひとりが防災意識を高め、日頃から自然災害に備えておくことが重要です。

東日本大震災発生からもうすぐ半年、そして9月1日は防災の日。今一度、防災について考え、いざという災害のときのために「心」と「もの」の備えをしませんか。

## 災害時一時避難施設

町では、津波や洪水等の災害が発生するおそれがある場合、又は発生した場合に、一時的な避難場所として、ホテルに逃げ込むことができるよう町内ホテルのご協力により、協定を結んでいます。7月22日、新たに「静内シティホテル」(旧ホテルタカシマ)と同協定を結びました。

ホテル名	住所	会社名	代表者	協定締結日
静内シティホテル	静内本町2丁目2-37	(有)ホース観光	代表取締役 新屋 敬	平成23年7月22日
ホテルローレル	静内本町1丁目1-1	高田観光(株)	代表取締役 高田 進	平成22年3月2日
静内ウエリントンホテル	静内吉野町3丁目1-1	桜舞観光(株)	代表取締役 船越 秀夫	平成22年3月2日
ホテルアネックスイン	静内本町2丁目3-1	佐藤観光商事(株)	代表取締役 佐藤 雅裕	平成22年3月2日

これらのホテルは、避難する時間的余裕がない場合に、指定避難場所へ避難するまでの「一時的な避難場所」です。災害時の避難については、高台あるいは指定避難場所に逃げ込むことが大原則になりますので、日頃から逃げ込むべき避難所等を把握しておいて下さい。なお、これまで避難所として指定していました「旧NTT静内営業所」は、7月末日をもって避難所の指定を解除しました。

## 共助

### ご近所とのあいさつが命を救う

阪神淡路大震災では、倒れた建物に閉じ込められた35,000人のうち、約8割の27,000人が近隣住民などに救出されました。日頃のあいさつで良い関係を築くことが、災害対策になります。



### 高齢者や障害のある方は、災害時共助希望要援護者台帳登録の申請を

町では、一人暮らしの高齢者や障がいのある方などで、避難場所へ移動する際に援護が必要な方を対象に「災害時要援護者支援台帳」を作成しています。災害時に避難場所まで一人で行くことができない方は、台帳登録の申請をして下さい。  
 問合せ 静内庁舎 福祉課 ☎0146-43-2111 (内線112・151)  
 三石庁舎 町民福祉課 ☎0146-33-2111 (内線115)

### 避難訓練を通し、地域の安全を

東日本大震災の被害を見て、津波に対する備えの意識が変わりました。自然の中で生かされている私たち人間にとって、自然災害は決して避けられません。春立は海岸近くのため、自治会の役員会で津波発生時の避難経路を再確認しました。10月には自治会で、津波を想定した避難訓練を行います。地域の方が津波へ備える意識をもってくれるよう、声かけを進め、実際に津波がおきた時、被害を少なくしたいと思えます。



春立自治会長  
中村 宏 さん

### 被害を最小限にする行動を

町では、東日本大震災を受け、地域防災計画を見直すこととしました。みなさんの命を守るため、防災計画は重要なものですが、いざ災害がおこった時、マニュアル通りの行動ができるかは限りません。また、東日本大震災の津波のように、一刻をあらそう事態であれば、消防や警察、自衛隊の救助も間に合いません。災害から身を守るためには、日頃から防災意識を持ち、自分で災害対策をする必要があります。防災の日を機会に、災害の被害を最小限にするための行動を考えてはみませんか。

【問合せ】静内庁舎 総務課 ☎0146-43-2111 (内線215)

### 防災マップ 配布しています

配布場所  
 ・静内庁舎 総務課  
 ・三石庁舎 総務企画課



町公式ホームページ(マイタウンガイドの消防・防災について)でも見ることができます。  
<http://shinhidaka.hokkai.jp/kurasi/mytown.html>

## 地震発生、その時の行動は？

突然の地震に対して、一瞬の判断が生死を分けます。まずは自分の身の安全を守ることが第一です。冷静に行動するために時間とともにどのように行動したらよいか、確認しておきましょう。

### 1 地震発生

#### 自分の身を守る

- ・丈夫なテーブルや机などの下で身を守る
- ・戸を開けて出口を確保する



### 2 1~2分

#### すばやく火の始末、家族の安全を確認

- ・火元を確認する(火が出たら、すばやく消火する)
- ・非常持ち出し品の準備をする

### 3 3分

#### 周辺地域の安全を確認

- ・余震に注意する
- ・隣近所に声をかける

### 4 5分

#### ラジオやテレビなどで正確な情報を確認

- ・デマに注意し、正しい情報をつかむ



### 5 5~10分

#### 避難する

- ・自宅を離れる際、玄関などに行き先を書いたメモなど貼っておく
- ・ガスの元栓を閉め、電気ブレーカーを落とし、あわてずに避難する

## 津波がおそってきたら

### とにかく「高台」へ

東日本大震災では想定外の津波により甚大な被害となりました。津波から身を守る鉄則は、テレビ・ラジオ・役場の広報などで正しい情報を入手し、**警報が発表されたら、とにかく「高台」へ避難することです。**また、津波は、最初の波が一番大きいとは限らず、繰り返しおそってくるので、警報・注意報が解除されるまで気をゆるめてはいけません。

### 津波予報の種類

予報の種類	解説	発表される津波の高さ
津波注意報	高いところで、0.5m程度の津波が予想されますので、注意して下さい	0.5m
津波警報	津波 高いところで、2m程度の津波が予想されますので、警戒して下さい	1m、2m
	大津波 高いところで、3m程度以上の津波が予想されますので、厳重に警戒して下さい	3m、4m、6m、8m、10m以上